



2011年4月29日掲載

## 変化—アジアの成長の再調整

アヌープ・シン

世界経済の成長の中心は、欧米からアジア、特にアジア新興国と中国へと移りつつあります。

しかし、この勢力の中心の移動に伴い生じた経済の不均衡を放置しておくならば、世界経済成長の持続可能性に負担が生じる可能性もあります。この再調整をどのように実現するか、これが IMF が香港で発表した新しい本「アジアの成長を再調整する—中国経済への意味 (*Rebalancing Growth in Asia—Economic Dimensions for China*)」の主要なテーマとなっています。

### アジアの成長源

これまで 30 年間、アジア経済は毎年 7% を超える成長を遂げてきました。言い換えるならば、その規模は 10 年毎に倍増してきました。この成功の主な要因は、市場原理に一段と大きな役割を与えるとともに、貿易財の生産の促進を共通のテーマとした、外向型の経済成長戦略でした。中国で 1978 年に始まった「改革開放」政策が、おそらくもっとも顕著な例でしょう。

しかし、次第に政策当局は、輸出主導型の成長は、成長の第二のエンジンにより調整されなければならないと認識するようになってきました。

- 対外経常収支は、1980 年代や 90 年代の概ね均衡が取れていた状態からここ数年で変化し、輸出へ大きく依存していることから黒字が急増しました。
- 世界金融危機は、外向指向の成長を遂げてきたアジアは、世界の需要の変動に対し脆弱であることを我々に再認識させるとともに、この変革が急務であることが浮き彫りとなりました。

このような不均衡に対処し外需への過度の依存を減らす上で、より力強い内需特に民間の内需が、成長の第二のエンジンとして役に立つと考えられます。

では、内需拡大はどのようにしたら達成できるでしょうか。

第一に、比較的内需が弱い理由は地域内で異なることから、再調整の意味も国によって異なります。中国では、民間消費の GDP に占める割合が少ないことが大きな課題となっている一方、他の国や地域で 1990 年代末以降低迷しているのは、民間投

---

この IMFdirect は <http://blog-imfdirect.imf.org/2011/04/29/rebalancing-growth-in-asia/> で閲覧可能。

IMFdirect ブログホームページ: <http://blog-imfdirect.imf.org/>

資です。つまり、政策は国ごとに変える必要があるのです。重要なことは金融部門の改革です。金融サービスへのアクセスを改善することにより、家計消費が拡大し、また中小企業やサービス部門への投資機会を求めている企業などが直面している様々な制約が緩和され、再調整プロセスが促進されます。

**第二に、中国は、成長の再調整にあたってより具体的な課題を抱えています。**輸出指向型の成長からの転換は、短期的には失業を引き起こしますが、内需指向部門でより多くの雇用が創出されていることから、実際には長期的に雇用が拡大すると考えられます。需要の面では、消費の低迷、家計の高い貯蓄率などは、中国では文化的背景によりある程度定められたものではなく、保健分野への一層の公的支出や、家計の金融サービスへのアクセスの改善といった政策への反応が、期待できる可能性もあります。

**最後に、持続的な世界経済の回復は、社会の不均衡の削減をどのように実現するかにも左右されます。**アジアの回復は、他の一部の地域で見られるほどの「雇用なき」回復ではありません。しかし、不平等とソーシャル・セーフティ・ネットの不足が、多くのアジア新興国・地域において、懸念事項となっています。実際、この本が示すように、中国では、社会福祉のより良い提供が家計消費を押し上げる上で、重要な役割を果たす可能性があります。

**再調整は効果があるのでしょうか。**

**再調整は、時間がかかりまた、政策は包括的で各国の環境に特化したものでなければならぬのは確かです。**

しかし、もし小規模製造業から、世界のロジスティックスと金融の拠点へと転換を遂げた香港の例が、我々に何かを教えてくれるとしたら、それは、我々の経済を一段と持続可能にするための変化を、我々は受け入れなければならないということなのです。